

# 第1回「日本語大賞」

テーマ 「人と人をつなぐ日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

## 「ぼくが考える日本語」

群馬県

みなかみ町立水上小学校 5年

五百久 禮園

ぼくは日本語を話します。日本人だから当然、と何も考えずに使っていました。みなさんは、毎日使う「この言葉」について、真剣に考えたことがありますか。

夏休みに上海旅行をした時のことです。現地ガイドさんの日本語が、とても上手なことに驚きました。今まで出会ったどのガイドさんより、なめらかで、言葉の使い方も的確です。感心した母が学習法をたずねると、

「上海の大学で学んだだけです」  
という答えが返ってきました。日本に住むこともなく、正しい日本語を身につけたということが、ぼくには不思議でなりませんでした。

最近、テレビなどで、日本語が上手な外国の人を多く見かけますが、日本語の意味や使い方のわからない日本人が多いことにも気づきます。それが、笑いのネタにもなっています。その番組を見て、ぼくも笑ったりしますが、悲しくなることもあります。これは、一体どういうことでしょう。

ぼくは、「日本人だから日本語が上手とは限らない」ということに気づきました。ぼくたちは、毎日朝から晩まで、夢の中まで、日本語で生活しています。学校でも国語を学びます。でも、意欲や興味をもって、日本語に接しているかという疑問です。なぜなら、気がつくと話せるようになっているので、真剣に向き合う機会が少ないからだと思います。俳句を習うようになって、ぼくも、言葉の大切さを感じるようになりました。たった十七文字の中に、一瞬のできごと、海より広い思いも表現することができます。言葉選びは難しいですが、言葉に対する思いや楽しさを知ることができました。

日本語は素晴らしい言葉です。多彩で豊かな表現ができると思うからです。そして、何より、ぼくたち日本人の大切な母国語です。

正しい言葉。でも、友達と話す時、先生にお話する時、みんなの前で発表する時、入院した祖母に手紙を書く時、必要な言葉は場合によって異なります。

ぼくの目標とする日本語は何だろう。正しいだけの言葉はいやです。中身のある言葉には知識や経験が、気持ちがかもった言葉には心の余裕が必要なことを、父が教えてくれました。これからは、一生懸命学び、毎日を大切に過ごしたいです。そして、「豊かな日本語」を使える大人になりたいと思います。